

平成 29 年度「知事と市町長の1対1対談」(南伊勢町)概要

1 対談時間

平成 29 年 7 月 24 日 (月) 16 時 00 分～17 時 00 分

2 対談場所

南伊勢町町民文化会館 (度会郡南伊勢町五ヶ所浦 3917)

3 対談市町名

南伊勢町 (南伊勢町長 小山 巧)

4 対談項目

- (1) 地域を支える福祉人材の確保対策の更なる充実について
- (2) 災害発生時における道路啓開について
- (3) 奈屋浦漁港の「流通拠点」としての整備について
- (4) 国道 260 号の整備について

5 対談概要

- (1) 地域を支える福祉人材の確保対策の更なる充実について
(南伊勢町長)

南伊勢町では、介護施設で働いていただいているヘルパーさんやケアマネージャーの方々の人材不足に陥っています。将来さらに人口が減っていき、特に生産年齢人口が大きく減っていく中では、これからもっと厳しい状況になっていくと思います。今後、ヘルパーさん等を養成しようとする、町内では若い人そのものが少なくなっているの、Uターン・Iターンの人材を受け入れる必要があります。

ヘルパーさん等の報酬については、生活を続けていくうえで厳しいものがあるという現状がある中、当町のように、人口が著しく減っていく過疎や中山間地域については、Uターン・Iターンの人材を呼び戻すために、ヘルパーさんのような介護職の方々の一定の報酬にプラスとなる特別手当のようなものを設けるなどの財政支援が必要ではないかと思っています。

この点は、国の問題ではありますが、県も一緒になって取り組んでいただきたいと思っています。

(知事)

三重県では、介護の分野における人手不足は厳しい状況にあり、いかにして人材を確保するかということが大きな課題になっています。

県では、元気なシニアの皆さんの参入促進のための研修や、高校生達に介護の職場を紹介して魅力を伝える魅力発信事業などを行っています。

さらに、三重県では、他県ではあまりない取組ですが、介護施設に

において、介護の専門知識がなくてもできる草刈りやベッドメイキングなどの仕事を、元気なシニアの皆さんに手伝ってもらい、介護助手という取組を平成27年度から行っています。

これは、介護人材の確保、専門職の負担軽減、利用者のサービス向上だけでなく、高齢者の就労の場の確保や高齢者の介護予防にもつながることだと思います。この介護助手の取組は、昨年度は18施設で実施しました。

過疎高齢化が著しい地域等への報酬の加算については、現在もそのような制度はありますが、それだけでは足りない部分もあるかと思っていますので、我々としてもよく地域の現状を聞き取って国に伝え、報酬の改善につなげてもらえるよう汗をかいていければと思っています。また、介護の人材確保のためのいろいろな取組は、引き続きやっていきたいと思っています。

(南伊勢町長)

現行の報酬基準では、ケアマネージャー1人当たり受け持つ件数が40件を超えると、1件当たりの報酬は減額されるような基準になっています。

人材不足の解消には、ケアマネージャーの数を増やすのも大事ですが、1人で受け持つ件数を50件ぐらいにしていただけないかと思っています。ケアマネージャーの皆さんは忙しくなるとは思いますが、それに見合う介護報酬が支払われれば、ケアマネージャーの人数を増やすのと同じ効果があると思います。

報酬基準は国の基準なので全国的なものですが、ぜひ県も一緒になって制度の改正に向けてご尽力いただきたいと思います。

(知事)

現在の報酬基準は、基本的には、ケアマネージャー1人あたりの取り扱い件数が多くなることによって居宅介護支援のサービスの質が低下することを防ぐための仕組みですので、これを大きく変えることは、現時点では難しいとは思いますが、ケアプランの作成等については、地域包括支援センターを通じて隣接の市町に手伝ってもらいなど、広域での支援は可能です。

報酬基準については、例えば、同じ件数でも重度の方の場合と軽度の方の場合とでは負担が違いかもかもしれませんので、そういう部分での制度の柔軟性については検討の余地があるのかどうか、いずれにしても、まずは地域の現状をよくお聞きしたいと思っています。

(2) 災害発生時における道路啓開について

(南伊勢町長)

災害発生時の道路啓開については、国の方では「くしの歯作戦」ということで、高速道路から南伊勢町へ向かう複数の道を1～2日で啓開するという計画になっていますが、南伊勢町では、津波による浸水や倒壊家屋などにより孤立するところが多く、一次避難所から二次避難所への避難者の移動や緊急物資の輸送には、やはり町内の幹線道路が通れるということ、幹線道路の道路啓開が非常に重要であると考えています。

道路啓開をするためには工作機械が必要ですが、大きな災害時はどの地域でも同じような状況になっている中、実際にこれらの機械を確保できるのか、1週間以内に啓開することができるのかなど、計画としてできるだけ具体性のあるものを作っていく必要があると考えています。それには、町だけでは無理なので、県や国の力をお借りしながらと思っておりますので、現時点での県の状況などをお聞かせいただきたいと思っております。

なお、道路啓開の話ではないのですが、災害への備えの産・官・高校生の協働取組「Myゼロパック」についてご紹介だけさせていただきます。これは、レスキューシートなど一晩しのぐために必要なものをいつも持ち歩けるようコンパクトにまとめたもので、南伊勢高校の防災教育授業で企画された商品です。

(知事)

南伊勢町の道路啓開については、高速道路のインターチェンジから沿岸部へ向かう玉城南勢線、伊勢南島線、紀勢インター線と、沿岸部の重要路線である国道260号などについて、災害協定を締結している建設業協会の各業者が担当路線を持って、遅くとも4日以内には啓開することとなっています。

また、南伊勢町内には、玉城南勢線の五ヶ所浦地内に1か所、国道260号の村山地内に1か所の計2か所、道路啓開基地を設けて、土のうやバリケードなどの資機材等の備蓄をしているところです。

さらに、毎年度、建設業協会の皆さんと情報伝達訓練を、平成27年度からは実動訓練を実施しています。「道路啓開計画・緊急復旧計画」は平成23年度に策定しましたが、毎年訓練を重ね、いざ発災した時に少しでも早く道路啓開ができるように、復旧・復興に進んでいけるようにやっていきたいと思っております。

(3) 奈屋浦漁港の「流通拠点」としての整備について

(南伊勢町長)

奈屋浦漁港は、全国で13位、三重県で1位の水揚げを誇る大きな漁港で、流通拠点漁港に位置付けられています。

また、国においては、大規模災害などで被害を受けても「水産物の生産・流通が中断しないこと」、「中断しても可能な限り短い期間で再開すること」を目的に、BCP（業務継続計画）を全国で3漁港について策定し、奈屋浦漁港はそのうちの1つになっています。

しかし、漁港の建設から20年以上が経過し、施設・設備も老朽化していますので、計画的に修繕を行うことが必要になってきています。漁港の長寿命化を図るための機能保全計画、また、大規模地震や津波にも耐えられる漁港とするための漁港施設機能強化事業計画を策定しました。

今後これらを実施していくには、本町の財政レベルでは難しいと思っています。流通拠点としての役割も担っていますので、ぜひ今後の整備について県からもお力をいただけないかと思っています。

(知事)

奈屋浦漁港は、流通拠点漁港となっており、県にとっても、水揚げ量も含めて、広域的に重要な漁港です。

そのため、港の管理の在り方や、防災における耐震岸壁・耐津波防波堤等の整備の仕方、輸出を見据えた高度衛生管理対策等について、南伊勢町全域を対象とした漁港の再編整備を検討する委員会に県も参加させていただいて、今後の奈屋浦漁港をどうしていくかということについて、しっかりと町と手を携えて検討していきたいと思っています。

(4) 国道260号の整備について

(南伊勢町長)

南伊勢町にとって国道260号は、これ無くしては生活も通院も通学も買い物も何も出来ない、他に代替のない一番重要な道路です。この道路の整備につきましては、次から次へと進めていただいております。本当にありがとうございます。

①船越工区は、260号で唯一、市街地で未改良区間として残っているとあります。今回、ここをバイパスとして、また、予測最大津波高を勘案した道路高で計画いただいております。現在、用地買収に入っておりますが、この工事を進めていただきたいと思います。

②東宮河内間につきましては、今回、東宮橋から東宮トンネルまで

を第1工区として改良に入ってくださいということで事業決定いただきました。予算の厳しい中決定していただいたことに感謝するとともに、ぜひ工事が早く進捗されますよう、ぜひよろしく願いをいたします。

(知事)

国道260号の整備の進捗につきましては、やはり町長をはじめ、町の皆さん、議会の皆さんが一体となって、国土交通大臣のところへ行くなど、町を挙げて粘り強く働きかけていただいたことが一番大きいと思いますし、皆さんの思いが強かったからこそ実現できたのだと思います。

船越工区、東宮河内間も、なるべく早くということですので、県としても、①船越工区については工事着手に向けて用地取得をしっかりとやっていきたいと思いますし、②東宮河内間については、東宮橋から瑞賢公園のところを優先順位1として、道路詳細設計、橋梁詳細設計を進め、前に前にと進んでいけるよう努力していきたいと思っております。